

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	大阪府立大学
設置者名	公立大学法人大阪

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・ 通信 制の 場合	実務経験のある 教員等による 授業科目の単位数				省令 で定 める 基準 単位 数	配 置 困 難
			全学 共通 科目	学部 等 共通 科目	専門 科目	合計		
現代シス テム科学 域	知識情報システム学類		14		14	28	13	
	環境システム学類 環境共生科学課程		14		4	18	13	
	環境システム学類 社会共生科学課程		14		4	18	13	
	環境システム学類 人間環境科学課程		14		18	32	13	
	マネジメント学類 マネジメント課程		14		8	22	13	
	マネジメント学類 経済データサイエンス課程		14		4	18	13	
工学域	電気電子系学類 情報工学課程		14	2	0	16	13	
	電気電子系学類 電気電子システム工学課程		14	2	10	26	13	
	電気電子系学類 数理システム課程		14	2	0	16	13	
	電気電子系学類 電子物理工学課程		14	2	0	16	13	
	物質化学系学類 応用化学課程		14	2	6	22	13	
	物質化学系学類 化学工学課程		14	2	6	22	13	
	物質化学系学類 マテリアル工学課程		14	2	8	24	13	
	機械系学類 航空宇宙工学課程		14	2	14	30	13	
	機械系学類 海洋システム工学課程		14	2	6	22	13	

	機械系学類 機械工学課程		14	2	4	20	13	
生命環境科学域	獣医学類		14		40	54	19	
	応用生命科学類 生命機能化学課程		14		28	42	13	
	応用生命科学類 植物バイオサイエンス課程		14		8	22	13	
	緑地環境科学類		14		8	22	13	
	理学類 数理科学課程		14		6	20	13	
	理学類 物理科学課程		14		26	40	13	
	理学類 分子科学課程		14		10	24	13	
	理学類 生物科学課程		14		16	30	13	
地域保健学域	看護学類		14		0	14	13	
	総合リハビリテーション学類 理学療法学専攻		14		0	14	13	
	総合リハビリテーション学類 作業療法学専攻		14		0	14	13	
	総合リハビリテーション学類 栄養療法学専攻		14		0	14	13	
	教育福祉学類		14		28	42	13	
(備考)								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

<ul style="list-style-type: none"> • WEB サイトで公表 https://www.osakafu-u.ac.jp/campus_life/course/study/syllabus/ • シラバス情報「履修上の注意」欄等にて、授業担当者の実務経験を活用した授業であることを明記

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	大阪府立大学
設置者名	公立大学法人大阪

1. 理事（役員）名簿の公表方法

公立大学法人大阪のWEBサイトで公表 https://www.upc-osaka.ac.jp/about/directors/

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
常勤	(前職) 株式会社大阪国際会議場 代表取締役社長	2023年4月 ～ 2027年3月	総理
常勤	(前職) 大阪府 教育長	2023年4月 ～ 2025年3月	総務、人事、企画、 広報
常勤	(前職) 大阪市 財政局長	2023年4月 ～ 2025年3月	財務、渉外、教育後 援会・同窓会、施設 整備、ダイバーシテ ィ、高専
非常勤	(現職) パナソニックホールデ ィングス株式会社取締 役/副社長執行役員	2023年4月 ～ 2025年3月	経営全般
非常勤	(現職) 株式会社インターアク ト・ジャパン代表取締 役	2023年4月 ～ 2025年3月	経営全般
非常勤	(現職) 株式会社国際社会経済 研究所理事長	2023年4月 ～ 2025年3月	経営全般
非常勤	(現職) フジモトゆめグループ 代表	2024年4月 ～ 2025年3月	経営全般
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	大阪府立大学
設置者名	公立大学法人大阪

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。	
(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要) 大阪府立大学のシラバスでは、授業名、担当教員名、授業の目的・到達目標、各回の授業内容、成績評価方法、成績評価基準、準備学習等についての具体的な指示、教科書・参考文献、履修条件等の情報を示し、Web サイトを通じて公開している。シラバスの入力・公開率は毎年 100%を維持している。	
授業計画書の公表方法	https://www.omu.ac.jp/campus-life/course/syllabus
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。	

<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <p>大阪府立大学では学士課程においてGPA制度を導入するとともに、各授業科目の成績評価に当たっては、その客観性・厳格性を担保するため、各学域等において「成績評価ガイドライン」を策定している。ガイドラインでは、成績評価基準等の明示や成績分布の目安等を示し、さらに、多角的な評価方法を推奨することによって、適切な成績評価が行われるよう工夫をしている。</p> <p>各授業科目単位では、成績評価基準及び成績評価方法についてシラバスに明記し、Web サイトを通じて公表するとともに、授業の初回において学生に周知を図っている。</p>	
<p>3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p>	
<p>(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>大阪府立大学では学士課程においてGPA制度を導入しており、その算出方法は、下記のWeb ページで公表している。成績分布等の把握については、各授業のGP分布やGPC (Grade Point Class Average)のデータをもとに、成績評価等が適切に行われているかを確認している。また、本学の学生・教員も、それぞれが利用するポートフォリオシステムにおいて、教員は担当する授業のGP分布やGPCを確認することができ、学生は、自身の成績だけでなく、受講する各授業のGP分布や、自身の各期のGPA及び累積のGPA、修得単位数の推移等の情報をいつでも確認することができるなど、システムを活用して成績情報を可視化している。</p>	
<p>客観的な指標の算出方法の公表方法</p>	<p>https://www.osakafu-u.ac.jp/campus_life/course/score/</p>
<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p>	

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

学則及び各学域規程において、規定する年限以上在学し、かつ、所定の教育課程を履修し、卒業に必要な単位を修得することを卒業要件とする卒業認定基準が定められている。また、学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)とともに、履修要項及び Web ページを通じて学生に周知を図っている。卒業の認定については、教務システムで一元管理されたデータから作成された卒業判定資料をもとに、教授会の議を経て学長が行っている。

卒業の認定に関する
方針の公表方法

<https://www.osakafu-u.ac.jp/info/education/>
<https://www.osakafu-u.ac.jp/info/education/regulation/>

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	大阪府立大学
設置者名	公立大学法人大阪

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.upc-osaka.ac.jp/info/upco_info/financial/
収支計算書又は損益計算書	https://www.upc-osaka.ac.jp/info/upco_info/financial/
財産目録	
事業報告書	https://www.upc-osaka.ac.jp/info/upco_info/financial/
監事による監査報告(書)	https://www.upc-osaka.ac.jp/info/upco_info/financial/

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:)	対象年度:)
公表方法:	
中長期計画(名称:)	対象年度:)
公表方法:	

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: https://www.osakafu-u.ac.jp/info/evaluation/self_report/

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法: https://www.osakafu-u.ac.jp/info/evaluation/accreditation/

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業又は修了の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 現代システム科学域
<p>教育研究上の目的（公表方法：https://www.osakafu-u.ac.jp/academics/college/csss/outline/policy/）</p> <p>（概要）自然科学、社会科学、人間科学の基本的知識に基づいて現象を多様な要素の相互作用としてとらえるシステムの思考力と、複数の領域の知識を横断的に用いて実社会における問題を特定・分析・解決する領域横断的応用力を備え、卒業後も自律的に考え、学び、成長することができ、高い倫理観をもって持続可能な社会の実現に貢献する人材を育成します。</p>
<p>卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：https://www.osakafu-u.ac.jp/academics/college/csss/outline/policy/）</p> <p>（概要） 所定の期間在学して各学類が定める単位を取得し、以下の能力を身につけた学生に学位を授与する。</p> <p>知識・技能</p> <ol style="list-style-type: none"> （多目的視点）自然科学、社会学、人間科学に関する幅広い知識・技能を持ち、事象を多面的に捉えることができる。 （データ活用力）客観的なデータを用いて正確に分析・判断ができ、自らの考え方を説明することができる。 （コミュニケーション能力）複数の言語の知識・技能を活用して、多様な人々とコミュニケーションすることができる。 <p>思考力・判断力・表現力</p> <ol style="list-style-type: none"> （システムの思考力）現象を多様な要素の影響の関係性として捉えることによって、問題の本質を理解することができる。 （領域横断的応用力）複数の領域の知識を横断的に用いて、問題を概念化して共通性を抽出し、分析・解決することができる。 （表現力）自らが行った問題解決への筋道を適切な表現法を用いて説明することができる。 <p>サステイナビリティ志向性</p> <ol style="list-style-type: none"> （社会的責任）自ら獲得した学問的知見を基に、つねに既存の社会の倫理を見直していこうとする責任を自覚することができる。 （サステイナブル志向）サステイナブルな社会の実現を目指し、他者と協働して課題解決に粘り強く取り組むことができる。
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：https://www.osakafu-u.ac.jp/academics/college/csss/outline/policy/）</p> <p>（概要） 学位授与に必要とされる能力（ディプロマポリシー）を養うために、以下の方針で教育課程を編成する。</p> <p>知識・技能</p> <ol style="list-style-type: none"> 幅広い知識・技能を持ち、事象を多面的に捉えることができる能力を養うために、教養科目、基盤科目の中に多様な科目を配置する。 知識情報システム学類、環境システム学類、マネジメント学類のそれぞれで必要となる

専門知識を修得させるため、座学と演習から構成される専門基礎科目、学域共通科目、学類専門科目を体系的に配置する。

3. 客観的なデータを用いて正確に分析・判断できる能力を養うために、基盤科目、専門基礎科目、学類専門科目の中にデータサイエンス系科目を配置する。

4. 複数の言語を用いて多様な人々とコミュニケーションできる能力を養うために、基盤科目、学類専門科目の中にコミュニケーション系科目を配置する。

思考力・判断力・表現力

5. 現象を多様な要素の影響の関係性として捉えることによって、問題の本質を理解することができる力（システムの思考力）を養うために、学域共通科目、学類専門科目の中にシステム系科目を配置する。

6. 複数の領域の知識を横断的に用いて、問題を概念化して共通性を抽出し、分析・解決することができる力（領域横断的応用力）を養うために、座学と演習から構成される学域共通科目、他学類専門科目を配置する。

7. 自らが行った問題解決への筋道を適切な表現法を用いて説明することができる力を養うために、導入科目、学類専門科目の中にプレゼンテーションを課す科目を配置する。

サステイナビリティ志向性

8. 持続可能性に関する基本的知識を身に付け、市民としての社会的責任を自覚する能力を養うために、学域共通科目の中に倫理系科目を配置する。

9. 自ら課題を発見して取り組む継続的学習能力、他者と協働して課題解決に取り組むことができる能力を養うために、演習形式による学類専門科目の中に PBL (Project Based Learning) 系科目を配置する。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：）

（概要）

2022年度より、新入生の募集停止

学部等名 工学域

教育研究上の目的（公表方法：<https://www.osakafu-u.ac.jp/academics/college/ce/outline/policy/>）

（概要）

科学と技術の融合領域である工学において、真理の探究と知の創造を重視し、自然環境と調和する科学技術の発展を図り、持続可能な社会の発展と文化の創造に貢献することをその基本の理念とします。この理念のもとで教育を実践し、幅広い総合的知識および工学分野の専門知識に基づいて問題を認識し、評価し、解決する基本的な能力を培い、創造性と個性を伸ばし、豊かな教養、高い倫理観と専門能力を兼ね備えた人材を育成します。

卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：<https://www.osakafu-u.ac.jp/academics/college/ce/outline/policy/>）

（概要）

真理の探究と知の創造を重視し、自然環境と調和する科学技術の発展を図り、持続可能な社会の発展と文化の創造に貢献することをその基本の理念とする。この理念のもとで教育を実践し、幅広い総合的知識および工学分野の専門知識に基づいて問題を認識し、評価し、解決する基本的な能力を培い、創造性と個性を伸ばし、豊かな教養、高い倫理観と専門能力を修得した者に学位を授与する。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：<https://www.osakafu->

u. ac. jp/academics/college/ce/outline/policy/)
<p>(概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> 「大阪府立大学学士課程が目指す学修成果」の達成を目的として、教育課程編成を行う。 工学の基礎に根ざした学問の系統性と順次性を尊重し、共通教育科目、専門基礎科目および専門科目（学域共通科目、学類共通科目、課程専門科目）により構成される整合性・一貫性を持つ体系化された教育課程を編成する。 学類内の課程への所属は経過選択型とし、柔軟で自由度の高い進路選択を可能にする。特に学域共通科目と学類共通科目を適切に配置し、転学類・転課程が可能になるようなカリキュラム編成により、幅広い学修と柔軟な進路変更を可能とする。 共通教育科目の履修により、教養豊かな人間性と幅広い学修成果を獲得させる。専門基礎科目の履修により、工学を学ぶために必要な自然科学全般についての基盤的知識を修得させる。専門科目の中でも、特に学類全体で必要とされる科目を学類共通科目に指定する。同様に学類を問わず幅広く必要とされる科目を学域共通科目に指定する。 基礎学力を重視するために専門基礎科目を履修させ、専門科目の基礎となる数学や自然科学を学修することにより、生涯に渡る学びの基礎を築かせる。 1年次では、幅広い学修を保証し、豊かな教養を涵養するために必要な共通教育科目を中心に配当し、2年次では、初年次で得られた基礎的で幅広い学修成果を3年次以降の専門科目履修に繋げることを目的に、専門基礎科目と各課程の基礎的な専門科目を中心に配当し、3年次以降では、課程専門科目を中心に配当し、講義・実験・実習・演習などを通して、専門分野に関する問題解決に応用できる能力を育成する。
<p>入学者の受入れに関する方針（公表方法：）</p> <p>(概要)</p> <p>2022年度より、新入生の募集停止</p> <p>3年次編入については、2024年度より、新入生の募集停止</p>

学部等名 生命環境科学域
<p>教育研究上の目的（公表方法：https://www.osakafu-u.ac.jp/academics/college/cleas/outline/policy/）</p> <p>(概要)</p> <p>生物の機能と生命現象の解明、自然環境、自然現象の理解と、それらの調和と持続的な利用のための基礎から応用までの広範な科学的知識と技術を修得するとともに、豊かな教養と問題解決能力、高い倫理観と創造力を身につけ、社会の多方面で貢献できる人材を育成します。</p>
<p>卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：https://www.osakafu-u.ac.jp/academics/college/cleas/outline/policy/）</p> <p>(概要)</p> <p>獣医学、応用生命科学、緑地環境科学、ならびにこれらの基盤となる自然科学分野に関する教育研究を行い、教育目標に示す能力を修得したものに学位を授与する。</p>

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法： https://www.osakafu-u.ac.jp/academics/college/cleas/outline/policy/ ）
<p>（概要）</p> <p>ディプロマ・ポリシーに掲げる能力を修得させるため、以下の教育課程を提供する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 高い教養を備え、科学技術に携わる者の責任感と倫理観を身に付け、国際社会で活躍する能力を養うために、共通教育科目として導入科目、教養科目、基盤科目を設ける。 2. 基礎科学の知識を広く修得し、それらを応用する基盤となる能力を養うために、専門基礎科目（理系基礎科目）を配置する。 3. 各学術領域の専門知識と技術、ならびに問題解決能力とコミュニケーション能力を養うために、各学類・課程の専門科目として講義、演習、実験・実習科目を体系的に配置する。
入学者の受入れに関する方針（公表方法：）
<p>（概要）</p> <p>2022年度より、新入生の募集停止</p>

学部等名 地域保健学域
教育研究上の目的（公表方法： https://www.osakafu-u.ac.jp/academics/college/chhs/outline/policy/ ）
<p>（概要）</p> <p>生命の尊さと人の尊厳を重んじ、豊かな人間性と深い教養を備え、人と社会に対する包括的視野と、人を支援する専門的かつ協働的な実践力を身に付け、地域社会および国際社会において人々の健康と福祉の向上に寄与する人材を育成します。</p>
卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法： https://www.osakafu-u.ac.jp/academics/college/chhs/outline/policy/ ）
<p>（概要）</p> <p>生命の尊さと人の尊厳を重んじ、豊かな人間性と深い教養を備え、人と社会に対する包括的視野と、人を支援する専門的かつ協働的な実践力を身に付け、地域社会および国際社会において人々の健康と福祉の向上に寄与する能力を修得した者に学位を授与する。</p>
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法： https://www.osakafu-u.ac.jp/academics/college/chhs/outline/policy/ ）
<p>（概要）</p> <p>共通教育科目、専門基礎科目および専門科目で構成し、専門科目において特に学域共通のコアとなる学域共通科目の区分を設ける。</p> <p>初年次から担当する共通教育科目については、学士課程教育の全学的な方針を尊重し、大学生として自ら学ぶ姿勢を身に付け、幅広い教養と社会人としての基礎力を高めるため、一般的な教養科目に加え、少人数ゼミナールや外国語科目、教養展開科目などを必修指定して積極的に学修できるように配慮する。</p>

共通教育科目と専門科目とのスムーズな接続に配慮しつつ、専門基礎科目とともに学域の理念を具体化する学域共通のコア科目群を設置する。すなわち「学域共通科目」として「生命倫理学」「人間支援科学」「コラボレーション論」「コミュニケーション論」「ケアリング論」の5科目（3科目以上を必修）を設置し、看護学類、総合リハビリテーション学類、教育福祉学類の3学類の学生たちが人間を支援するために必要な倫理や基本的な知見について共に学び、協働的な実践を行うための共通の基盤を形成する。そのうえで学類ごとの専門科目の設置についても、次の点については学域で一致した配慮を行う。

- 少人数による授業を基本としたきめ細かな教育の実施
 - 主体的な学習への関心と方法を身につけるための実践的・臨床的な体験を含む演習・実習科目の初年次からの配置
 - 学外実習施設との密接な連携による、教育と実践の効果的な学習体制の充実
 - 実践的なチーム医療や福祉・教育とのコラボレーションが可能になるような教育の実施
- なお、さらに自由選択枠を設け、多様な関連分野への主体的な関心に基づき、学類の専門科目の枠を超えた科目選択を可能とする。

入学者の受入れに関する方針（公表方法： ）

（概要）

2022年度より、新入生の募集停止

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：<https://www.osakafu-u.ac.jp/info/outline/org/>

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	人	—					人
—	—	人	人	人	人	人	人
—	—	人	人	人	人	人	人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長				学長・副学長以外の教員			計
7人				671人			678人
各教員の有する学位及び業績 （教員データベース等）		公表方法：教員データベース (https://kyoiku-kenkyudb.omu.ac.jp/html/home_ja.html)					
c. F D（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
現代システム 科学域	0人	0人	0%	320人	390人	121.9%	0人	0人
工学域	0人	0人	0%	475人	578人	121.7%	0人	0人
生命環境科学 域	0人	0人	0%	419人	495人	118.1%	0人	0人
地域保健学域	0人	0人	0%	255人	269人	105.5%	0人	0人
(備考)								

b. 卒業生数・修了者数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業生数・修了者 数	進学者数	就職者数 (自営業を含 む。)	その他
現代システ ム科学域	320人 (100%)	56人 (17.5%)	231人 (72.2%)	33人 (10.3%)
工学域	430人 (100%)	369人 (85.8%)	50人 (11.6%)	11人 (2.6%)
生命環境科 学域	321人 (100%)	204人 (63.5%)	103人 (32.1%)	14人 (4.4%)
地域保健学 域	257人 (100%)	26人 (10.1%)	226人 (87.9%)	5人 (2.0%)
合計	1328人 (100%)	655人 (49.4%)	610人 (45.9%)	63人 (4.7%)

(主な進学先・就職先) (任意記載事項)

(備考)

c. 修業年限期間内に卒業又は修了する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）

学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業・修了者数	留年者数	中途退学者数	その他
現代システム 科学域	326人 (100%)	285人 (87.4%)	34人 (10.4%)	7人 (2.2%)	0人 (0.0%)
工学域	456人 (100%)	373人 (81.8%)	53人 (11.6%)	30人 (6.6%)	0人 (0.0%)
生命環境科学 域	350人 (100%)	295人 (84.3%)	43人 (12.3%)	12人 (3.4%)	0人 (0.0%)
地域保健学域	260人 (100%)	246人 (94.6%)	10人 (3.9%)	4人 (1.5%)	0人 (0.0%)
合計	1392人 (100%)	1199人 (86.1%)	140人 (10.1%)	53人 (3.8%)	0人 (0.0%)

(備考)
 ・対象者は2020年度入学の学生だが、生命環境科学域獣医学類（6年制）のみ2018年度入学
 ・工学域について、編入学の学生を除く

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

(概要)
 大阪府立大学のシラバスでは、授業名、担当教員名、授業の目的・到達目標、各回の授業内容、成績評価方法、成績評価基準、準備学習等についての具体的な指示、教科書・参考文献、履修条件等の情報を示し、Webサイトを通じて公開している。
<https://www.unipa.omu.ac.jp/uprx/up/pk/pky001/Pky00101.xhtml?guestlogin=Xuk010>
 年度の授業の計画については、各学域・学類の履修要項で公開している。
https://www.osakafu-u.ac.jp/campus_life/course/curriculum/

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要)
 各授業の学修成果に係る評価の基準はシラバスに明示している。
<https://www.unipa.omu.ac.jp/uprx/up/pk/pky001/Pky00101.xhtml?guestlogin=Xuk010>
 卒業及び修了の認定に関する基準は、学則及び各学域規程に定めている。
<https://www.osakafu-u.ac.jp/info/education/regulation/>

学部名	学科名	卒業又は修了に必要な 単位数	GPA制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
現代システム科学 域	知識情報システム 学類	132単位	有	1年間で50単位
	環境システム学類	132単位	有	1年間で50単位
	マネジメント学類	132単位	有	1年間で50単位
工学域	電気電子系学類	128単位	有	1年間で50単位
	物質化学系学類	128単位	有	1年間で50単位
	機械系学類	128単位	有	1年間で50単位
生命環境科学域	獣医学類	219単位	有	1年間で60単位 (1年次は50単位)
	応用生命科学類	132単位	有	1年間で50単位
	緑地環境科学類	132単位	有	1年間で50単位

	理学類	132 単位	有	1 年間で 50 単位
地域保健学域	看護学類	128単位	有	1 年間で 50 単位
	総合リハビリテーション学類 理学療法学専攻	132単位	有	1 年間で 50 単位
	総合リハビリテーション学類 作業療法学専攻	132単位	有	1 年間で 50 単位
	総合リハビリテーション学類 栄養療法学専攻	133単位	有	1 年間で 50 単位
	教育福祉学類	129単位	有	1 年間で 50 単位
G P A の活用状況（任意記載事項）		公表方法： https://www.osakafu-u.ac.jp/campus_life/course/score/ 大阪府立大学では、G P A を履修指導や学習支援の他、成績優秀者の決定や課程配属の際の要件として活用している。		
学生の学修状況に係る参考情報 （任意記載事項）		公表方法： https://www.fd-center.osakafu-u.ac.jp/partnership/		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法： <https://www.osakafu-u.ac.jp/info/campus/>

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考 (任意記載事項)
全学域	全学学類	535,800 円	大阪府民 及びその子 282,000 円	※獣医学類のみ 実験機器充実負 担金 85,000 円/年額	
			その他の者 382,000 円	実習充実負担金 100,000 円/年額	

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
(概要) 【アクセシビリティセンター】 障がい、性的指向・性自認 (SOGI) 等を理由とし支援を必要とする学生のための相談・支援窓口として「アクセシビリティセンター」を置き、学生の所属部局・担当教員等と連携しながら、支援内容のコーディネートを行っている。なお、具体的な合理的配慮の提供においては「障がいのある学生の修学上の合理的配慮検討会議」で審議・決定を行う。また、アクセシビリティ支援及び推進を全学的に取り組むことを目的とし、全学組織であるアクセシビリティ支援委員会を設置している。
b. 進路選択に係る支援に関する取組
(概要) 【キャリア支援室】学生の「個別進路相談」(キャリアコンサルタント資格や民間企業での職務経験豊かなスタッフによる個別面談)を日常的に予約受付し実施している。また学生が自らの進路選択に必要な情報を「就職ガイダンス」(就職環境の動向に対応して多様なテーマで実施)や「学内セミナー」(企業や団体から実践的な情報提供)などの就職支援イベントを通じて、低年次生から上位学年まで、進路選択に関する支援を行っている。 ※2022年度、大阪府立大学と大阪市立大学が統合し大阪公立大学がスタート。府大生、市大生、公大生がそれぞれ納得の行く進路選択ができるように、各キャンパスを越えてオンラインによる支援も積極的に実施している。
c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組
(概要) 【健康管理センター】校医・看護師による、健康相談や応急処置、健康診断の実施とその後の健康管理を実施する。 【メンタルヘルスセンター】校医による精神科相談、臨床心理士によるカウンセリングを実施する。メンタルチェックを実施し、メンタル不調に対して早期に支援していく。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法 : https://www.osakafu-u.ac.jp/info/education/
--

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄（合計欄を含む。）について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「－」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード (13桁)	F127210107887
学校名 (〇〇大学 等)	大阪府立大学
設置者名 (学校法人〇〇学園 等)	公立大学法人大阪

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者（家計急変による者を除く）		280人	275人	304人
内訳	第Ⅰ区分	161人	165人	
	第Ⅱ区分	76人	72人	
	第Ⅲ区分	43人	38人	
	第Ⅳ区分	0人	0人	
家計急変による支援対象者（年間）				12人
合計（年間）				316人
(備考)				

※ 本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分、第Ⅳ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号、第4号に掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	—	人	人
修得単位数が標準単位数の5割以下 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が標準時間数の5割以下)	0人	人	人
出席率が5割以下その他学修意欲が著しく低い状況	0人	人	人
「警告」の区分に連続して該当	—	人	人
計	—	人	人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遑って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
年間	0人	前半期	人	後半期	人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数の6割以下 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が標準時間数の6割以下)	0人	人	人
GPA等が下位4分の1	—	人	人
出席率が8割以下その他学修意欲が低い状況	0人	人	人
計	—	人	人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。